

説教

義認：神の摂理

OIC の皆さんお早うございます。

使徒パウロが、そして聖霊が、約 2000 年前のローマに住むキリスト者たちに向けて書いたこの手紙に込めた意味を引き出そうとすると、私はメインテーマである「義認」という言葉を思い起こします。この基礎となる神学、神についての知識は、この手紙全体を通して貫かれています。神についての真の知識は、新しい関係を始めるだけでなく、神とのより深い歩みへと導きます。私は、これを「イエスにより近づく歩み」と呼んでいます。最近学んだローマ人への手紙 7 章と 8 章では、クリスチャンの規範的な生き方について、何を期待し、どのようにすべきかが強調されています。聖書の YouTube の「クリスチャン生活ビデオ」のようなものかもしれません。神の人たちが、聖霊の息吹によって書かれたこの手紙は、後に聖書の一部として受け入れられました。

親愛なる OIC の聖徒の皆さん、神学を説明するためのこのユニークで難しい言葉のすべては、喜びに取って代わるものではなく、喜びを高め、大きくするものであることを忘れないでください。シンプルな古い賛美歌にこうあります—

他の議論はいらない

他の嘆願はいらない

イエスが死んでくださったことだけ、

私のために死んでくださったことだけで十分である

義認とは、御子が私たちの罪をすべて背負ってくださったことを私たちが信じることで、神が私たちの罪を私たちに認めないことを意味します。イエスは、ローマ帝国の十字架上で血まみれの痛みを伴う死を遂げられました。イエスは「私たちのすべての負債を支払ってくださった」ので、私たちは、神に対する自分たちの罪のために、神に負債を支払う必要はありません。ローマ人への手紙で最近学んだ章やローマ書の他の章では、信じて生まれ変わった瞬間に受けた神の御霊のために、クリスチャンが神との正しい関係を持ち、どのように聖なる生活を送ることができるかを詳しく述べています。

ローマ人への手紙が強調しているように、私も強調したように、クリスチャンがイエスの近くを歩むこと、天の栄光に向かって歩むことは、人間には本当は不可能です。しかし、神は奇跡の神であり、神に不可能はありません。神は、イエスの犠牲を信じる信仰を通して、私たちに神との

正しい立場を与えてくださっただけでなく、神が始められたことを完成させる**保証**も与えてくださいました。神は、まだ罪人であった私たちのうちに、主体的に再生を開始されたのです：新たに生まれ、人間や悪魔に敵対されながらこの世を生き抜き、無事に天国に導かれたのです。

その保証とは聖霊のことであり、通常、三位一体の第三位格と呼ばれる聖霊は、イエスが**大宣教命令**で最後の20節でこう語られました。（マタイの福音書28：18-20）で：「**18** イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。**19** それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、**20** また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

ローマ人への手紙は、第三位格が神の頭に置き、第一位格や第二位格に劣るものではないことをはっきりと示しています。**不可能**が現実になるのは、神がすべてのクリスチャンの内に住む聖霊を与えてくださったからです。

先週、私たちは、聖霊に従って歩むこと、肉に従って歩まないことが、いかに私たちの選択によってもたらされるかを見ました。何に心を定め、何に人生を投資するかという選択が、私たちの歩みを生み出します。私たちが何に心を向けるかによって、イエスとの親密な歩み、聖霊と協力する人生を可能にするのです。ローマ人への手紙8章6節にあるように、聖書は次のように警告しています。（ローマ人への手紙8章6節）：「肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。」そしてガラテヤ人への手紙6章8節では：「自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。」神の御言葉はしばしば、**良い種**を蒔く「農夫」の働きを使って、御霊が農夫によって豊かな収穫をもたらすことを説明します。あなたは、御霊に心を向ける能力が欠けているのではないかと心配するかもしれませんが！ 大いなる助け主がいることを忘れないでください！（ローマ人への手紙8章9節）はその恐れを消し去ってくれます。しかしながら、{もしあなたがクリスチャンであるなら}あなたが肉の中にいるのではなく、聖霊の中にいるのですから。ですから、私たちの天の助け主であるイエスの御霊は、そして、その方は父と御子と一体の神でありますから、私たちが気づくいても気づかなくても、絶えず私たちを助けてくださっているのです。

イエスへの信仰によって義とされることは、天の父を持つことにつながります。イエスの父は、今や養子縁組によって私たちの父なのです。ですから（ローマ人への手紙8章15節）は子としてくださる御霊と呼ばれています。：「**15** あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父。」と呼びます。」アバとはアラム語で、小さな子供が愛を求めてパパ（英語）やお父ちゃん

(日本語) と呼びかける言葉です。 このように、神はご自分の子どもたちと親密になりたいと願っておられるのです。 私は、Expositors Bible Commentary (EBC) から引用をしたいです：

「私たちは、聖化があまりにゆっくりと、あまりにいい加減に進んでいるために、自分の救いを疑うことがある。しかし、御霊は、クリスチャン生活の進歩やその欠如を保証の証しとはされない。御霊は、私たちが「私は神の子です」と叫ぶように導かれるのではない。むしろ、父としての神を呼び求め、関係を築いた神に自分自身から目を向けるように導いてくださる。」

これは、最近の聖句における息子たちと子供たちについての私の釈義と一致します。 御霊は、神の子たちとして私たちに確信と力を与え、子どもとして天の父に呼びかけるように、優しく、しかし強く導いてくださいます。

しかし私はこうも思います。 EBC の引用に付け加えることも重要だと思います：

1. 神が関係を築かれた関係を通して、聖霊もまた、私たちの目をイエスに戻させます。(ヘブル人への手紙 12 章 2 節) にあるように「**信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。**」
2. 私たちの聖化は、ゆっくりとして、そして頼りなげに進んでいるからと言って、私たちに対する神の最善の御心と神の心の願いは、私たちの救いを疑うことではありません。聖霊の力は、私たちがイエスに従うように定められていく中で、すべての疑いや遅々として進まないことに打ち勝つためのものですから！

そうです、聖霊はクリスチャンに力をもたらしますが、奴隷の霊ではありません。 サタンはしばしば聖霊のようなことを言いますが、それは私たちを混乱させ、神が厳しく仕事を課す方であるかのように感じさせます。 だからこそ、心の戦いの中で、私はしばしば、なお聖霊の穏やかな**静かな小さな声**を待ちます。 しかしその声は、大胆さ、自信、そして「イエスは主であると宣言すること」を止められない衝動を生み出します！ また、私たちは、神を箱の中に入れて、神の愛する子供たちにどのように、神と会話をするのかを制限してはいけません。 神が選ばれるなら、神は聞こえる声で語られます。 しかし、戦いがあまりにも大きいと思われる時、御霊の剣(御言葉)を含む神の武具を使った後、イエスの兵士の一人として、私はしばしば、聖霊の穏やかな**静かな小さな声**を待ちます。

エリヤでさえ、待たなければなりませんでした(列王記 第一 19 章 9 - 13 節)：「**9** 彼はそこにあるほら穴にはいり、そこで一夜を過ごした。すると、彼への主のことばがあった。主は「エリヤよ。ここで何をしているのか。」と仰せられた。**10** エリヤは答えた。「私は万軍の神、主に、熱心に仕えました。しかし、イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています。」 **11** 主は仰せられた。「外に出て、山の上で主の前に立て。」する

と、そのとき、主が通り過ぎられ、主の前で、激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風のあとに地震が起こったが、地震の中にも主はおられなかった。12 地震のあとに火があったが、火の中にも主はおられなかった。火のあとに、かすかな細い声があった。13 エリヤはこれを聞くと、すぐに外套で顔をおおい、外に出て、ほら穴の入口に立った。すると、声が聞こえてこう言った。「エリヤよ。ここで何をしているのか。」

エリヤは、神の預言者として御霊のうちに歩む中で、神の力強い奇跡が普通のことになっていたため、心の中で主の声を聞いても（列王記第一 19 章 9 節）、それが神の声だとは思えませんでした。そこで、私たちの慈愛に満ちた神は、（11 節）にあるように、肉体的な体験をさせて、更にメッセージを与えました。これは明らかに、エリヤの全神経を集中させました。このことは、私たちが落ち込んでいる時のために、心に留めておくことです。イエスは御言葉だけでなく、常に御霊によって私たちに伝える個人的な方法を知っておられます。もしかしたら、私たちの心に記憶を呼び起こさせたり、思いがけない言葉を置いてくださるかもしれません。主はエリヤの注意を引いた後、同じ質問を繰り返されました：「エリヤよ、ここで何をしているのか」（13 節）と主からの詳細な質問が続きました。

先週見たように、また以下（ローマ人への手紙 8 章 14 節）でも繰り返されているように、神の子どもたちは神の子とさえ呼ばれています。神は、すべてのクリスチャンが神の子イエスのような時を待ち望んでおられます。と言うのは、（ヨハネの手紙 第一 3 章 2 節）に書かれています。：「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」

神はパウロに、栄光への道を歩むこと、イエスを見ること、そして自分たちがすでに神の子であると考えてることを強調するよう霊によって示されました。その意味では、すでにお父ちゃんと全能の神に呼びかける神の子であることと矛盾していません。

自分への良くないイメージ（自分を正当に評価しないこと）は、神に対する自分の重要性についての悪い態度です。それは、自己憐憫、反抗、貪欲、嫉妬、憎悪の種の温床となります。自分への良くないイメージは、謙遜ではなく、神が私たち一人ひとりを素晴らしいものとしてくださっていることを認めようとしないことです。（詩篇 139 篇 14 節）で、詩篇の作者が書いているように、「私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。」

神が私たちを「神の子供達」と呼んでくださることを知れば、自分への良くないイメージを抱く余地はなく、かえって謙虚になれます。

教訓#1

ローマ人への手紙には、新約聖書の中でも最も簡潔で理解しにくい神学が書かれています。その多くは、ローマの家の教会で開かれる集会に参加するユダヤ人たちを対象としています。キリスト・イエスにおいて啓示された神の多くの奥義を説明しています。神学とは神に関する知識であり、人が神との関係に影響を与え、神の御子を受け入れ、信仰によって義とされることを神が意図したものです。

ローマ人への手紙の7章と8章は、神がクリスチャンのために、またクリスチャンと共にいる超自然的な行為を明らかにし、そして説明しています。神の憐みである受けるに値しない者への恵みは、原因（古い性質）と結果（新しい命）のクリスチャン・ライフを生み出します。と言うのは、私たちの古い性質と戦いつつ、そして聖霊の導きを感じながら、あるいはクリスチャンとしての経験を感じつつ、その原因と結果を生み出すのです。

「14 神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。」

先週の（ローマ人への手紙8章14節）では、パウロが肉に従って**歩むこと**と、御霊に従って**歩むこと**とを明確に区別したことを見ました。人間の基本的な経験である罪の道か、聖なる生き方かを選んで歩むということです。さて、イエスのために歩むという超自然的な側面には、ただ選ぶだけでなく、導かれるという実例があります。

真の親子関係であるかどうかは、誰が、あるいは何が導いてくれるかによって決まります。自分が聖霊に導かれているかどうかを、よく心配していたことを思い出します。心配することは罪です！このような態度は、健全な霊性であることが生み出す心配かもしれませんと、言わせてください。（ローマ人への手紙8章14節）がこの懸念に同意していることについて最近気づきました。：「神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。」

謙虚に主を敬い、しかし非難を恐れないことは霊的に健全です。私はいつも、私が経験できるイエスの最も多くを逃したくないと思っています。私が何をしたにせよ、神はその時その場所で私に出会い、私に手を差し伸べ、教え、そして今も教え続けてくださっています。私の人生が、主との日々の交わりだけでなく、主との未来永劫の永遠を目指すものであるなら、聖霊は私を導く手段を見つけてくださるということを学びました。体験的キリスト教、あるいは単にキリストのうちに生きることは、まさに御霊のうちに生きることです。

30年ほど前、ある立派な牧師が、神が何か特別なことをなさるために、自分が適切な時に適切な場所にいることを発見することがある、と話しているのを聞いたことがあります。私もそれを望んでいました！私は祈ったかもしれませんが、主のご好意（詩篇37篇4節）によって、それは起こり始めました。「主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」私の召命、適切な場所、適切な時間のために、それは大抵、見知らぬ人との出会いとなって現れます。

これは神の摂理です。

これが神の摂理です。 摂理とは、私たちの天の父が、養子である子供たちのために日常生活において配慮や後見をしてくださることです。 これは、私たちの内側に、そして私たちの上におられる聖霊の力によって、この地球上で起こるのです。

親愛なる OIC の皆さん、私は今、私たちの上におられる聖霊との関係を表す新しい言葉を紹介しました。 聖書（ルカの福音書 3 章 21-22 節）が宣言しているように、イエスが川で洗礼者ヨハネのもとに来られたとき、三位一体、つまり神の第三位格が共にそこにおられました。 イエスはコーヒーに入れたドーナツのように水に沈められました。 : 「**21** さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、**22** 聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。

「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

神の子イエスが地上での力強い働きを始めるために聖霊を必要としたのであれば、私たちもそうすべきではないでしょうか。 三位一体は目に見える形で地上に現れました : イエスは川の中におられ、聖霊がイエスの上に臨まれ、御父が語られました。 私たちがそれを感じるかどうかは別として、私たちクリスチャンが行く先々で、三位一体である神格が私たちと共にいるのです。 私たちの上に聖霊の油注ぎを祈ることは、今日の世界でイエスの大使となるための私たちの謙虚な応答なのです。 (コリント人への手紙 第二 5 章

20 節) にあります。 : 「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。 ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。 私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。 神の和解を受け入れなさい。」

イエスは、神の力をもってご自身の名が、人々と共有されることを望みます。

教訓 #2 もし私たちのような罪深い肉を内に持たなかったイエスが、神への奉仕のために聖霊を必要としたのであるなら、私たちもそうすべきではないでしょうか。 内側だけでは不十分で、聖霊が私たちの上になければなりません。 これこそ、イエスが罪深い世にイエスを示すために私たちにふさわしい力なのです。

(ローマ人への手紙 8 章 16 - 17 節) を読みます。 : 「私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。」

そして、ここで *New Living Translation* を参照します。

(ローマ人への手紙 8 章 16 節) : 「**16** 彼の霊が私たちの霊と結び合い、私たちが神の子であることを確認するからだ。」

(16 節) NLT の「彼の霊が私たちの霊と結び合い」の箇所
に焦点を当てます。キリストにある兄弟姉妹の皆さん、聖霊は本当に皆さんの内側におられるのです。私を含め、私たちはその事実をあまりにも簡単に忘れてしまいます。 **神を讃えます！** 神は忘れることなく、聖霊によって積極的に、私たちが神の子であることを思い出させ、リフレッシュさせ、新しくしてくださるのです。パウロは、前述したように、神の息子たちと神の子たちの両方を用いています。「息子（娘）たち」は、栄光への歩みに対する自信と大胆さを奨励するために使われているのだと思います。一方、子供たちは、私たちが栄光に向かって歩むときに、謙遜に父なる神に頼ることを強調するために使われています。これらの関係の真理は、どちらも私たちの心の中にあることを意図しています。

私はいつも、なぜクリスチャンは「善人も悪人も苦しむのかについての理由を書いた」本を読むのだろうと不思議に思います。 私たちクリスチャンは（ローマ人への手紙 8 章 17 節）を読むだけで、私たちの生活に個人的に当てはまる答えを得ることができます。

ローマ人への手紙 8 章 17 節 (NLT) : 「そして、私たちはその子どもであり、相続人である。事実、私たちはキリストとともに神の栄光を受け継ぐ者なのだ。しかし、神の栄光を分かち合うためには、神の苦しみも分かち合わなければならない。」

まず、私たちが **神の相続人** であるために、私たちの相続について見てみましょう。全世界のほとんどの社会では、父親が死んだときに父親が遺贈 {財産、金銭、所有物} した遺産を子供たちが相続します。したがって、子供たちは相続人と呼ばれ、通常、遺言書の中で特定されます。 私たちには、相続を保証する世界で最も信頼できる文書、聖書があります。私たちが OIC のキリストにある兄弟姉妹は、キリストと共に神の栄光を受け継ぐのです。神はすでに私たちが神の子たち、神の息子（娘）たちと呼んでおられます。しかし、神は善であり、神は真実です。

十字架上で死に至るまで父に従順であったイエスが天国で受ける栄光は、イエスの家族であるすべてのクリスチャンと共有されます。（ヨハネの黙示録 5 章 11 - 12 節）において、天使たちは世の罪を取り除いた神の子羊であるイエスを讃えます。 : 「**11** また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。、 **12** 彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、**栄光と、賛美**を受けるにふさわしい方です。」

私たちの価値の無さはまったく考慮されていません。救いは贈り物です。天使たちがイエスにふさわしいと宣言しているのと同じ栄光を、神の子どもたちにも与えようというのが神の御心です。 私たちもそれを受けます！ 神の栄光という筆舌に尽くしがたいものを、私たちはどう表現すればいいのでしょうか。 それはある意味、神の本質そのものですが、言葉では表しきれません。 この地球が神によって滅ぼされた後、新しいエルサレムが天から新しい地球のために降りて

くるときに、私たちはいくつかの説明を受けるでしょう。（ヨハネの黙示録 21 章 23 節）で「**都**には、これを照らす太陽も月もない。というのは、**神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。**」

それは、光以上のものです。聖書は、クリスチャンが神の特別な触れ合い、聖霊の臨在や私たちの上に動くことを、感覚や何らかの方法で感じ取ることができることを示しています。（コリント人への手紙 第二 3 章 7 - 8 節）によれば、聖霊はモーセと違って、感覚が薄れた後も私たちと共にいてくださると記されています。：「**7 もし石に刻まれた文字による、死の務めにも栄光があつて、モーセの顔の、やがて消え去る栄光のゆえにさえ、イスラエルの人々がモーセの顔を見つめることができなかつたほどだとすれば、8 まして、御霊の務めには、どれほどの栄光があることでしょう。**」

モーセは、神がモーセと会って律法（十戒）を授けられた後、神の栄光の影響が薄れるまで顔を覆いました。パウロが、私たちは信仰によって義と認められ、律法では誰も救えなかつたと教えているように、私たちには色あせることのない栄光があります。私たちの内には聖霊が住んでいます。しかし、神がご自身の栄光をクリスチャンと共に、あるいはクリスチャンの上に現そうと決心される時は、他の時よりも明らかに多いのです。モーセの体験的キリスト教に関して（コリント人への手紙 第二 3 章 18 節）を読みます：「**私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。**」

クリスチャンは聖霊を内に宿していますが、主イエスから神の臨在を感じる経験を持つかもしれません。（ローマ人への手紙 1 章 17 節）で見たように、成熟とは信仰によって信仰に生きることです。「**なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。**」

私たちは、神の御言葉である聖書を信じるだけでなく、神の御言葉に書かれている体験的キリスト教を信じることによって、神の聖霊が私たちの内側に住んでくださると信じています：（ローマ人への手紙 8 章 16 節 NLT）：「**16 その霊は私たちの霊と結合して、私たちが神の子であることを確証してくださるからです。**」

夫々の信者は、父と子を知るように、聖霊を自分の内側に知るようになります。聖霊はいつも、**イエスを証しする体験的なキリスト教**を与えてくださいますが、その方法は様々です。しかし、それが本当に聖霊であるとき、私たちはいつも、イエスを通して神を経験したとすることができるのです！” 肯定、奇跡、平和、御霊の賜物、御霊の実.....それはイエスです。

では、イエス・キリストの苦しみを分かち合うクリスチャンについて見てみましょう。まず、イエスも苦しみを好まれなかつたことを知る必要があります。もしイエス御自身が人間性を持つ

ていなければ、100%人間であると同時に100%神であることはできなかつたでしょう。天国で今もそうであるように、私たちの苦しみを共に感じることはできませんでした。彼は父である神に決して逆らいませんでした。しかし、ゲツセマネの園で、十字架を避けたいという人間性を示されました。（マタイの福音書 26 章 36 - 39、44 節）：「**36** それからイエスは弟子たちと一しょにゲツセマネという所に来て、彼らに言われた。「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい。」 **37** それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとを一しょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。**38** そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしと一しょに目をさましていなさい。」 **39** それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」 … **44** は、またも彼らを置いて行かれ、もう一度同じことをくり返して三度目の祈りをされた。」

イエスに「私は悲しみのあまり、死ぬほどです。」と言わせたのは、肉体的な苦痛ではなく、十字架の上で父から引き離されることを知ったからであり、霊的なものでしかなかったと言えるかもしれません。しかし、たとえそうであったとしても、それは不可能な状況に対する人間的な反応でした！ 聖金曜日にイエスが私たちの贖いを支払い、その救いの贈り物を受け取った私たちにとって、イエスの従順は、尚の事貴重で美しいものです。（ヘブル人への手紙 12 章 2 節）

は、イエスが辱めを受け、恥をかかされたことを明らかにしています。それが私たちの主が受けた苦しみでした。（ヘブル人への手紙 12 章 2 節）：「**信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず**に十字架を忍び、**神の御座の右に着座**されました。」

（ローマ人への手紙 8 章 17 節/NLT）：「そして、私たちはその子どもであり、相続人である。事実、私たちはキリストとともに神の栄光を受け継ぐ者なのだ。しかし、神の栄光を分かち合うためには、**神の苦しきも分かち合わなければならない。**」

使徒パウロは、キリストの苦しみを分かち合うことは、栄光への歩み続けるための**選択肢ではない**ことを明らかにしています。神は私たちに、地上での栄光の味、救いの保証、聖霊の内在と油注ぎによる経験を与えてくださいました。私たちには、**この世のもの**とは思えないほどの報酬があります！

さて、パウロはこれらの励ましを確認しています。（ローマ人への手紙 8 章 18 節）の中で：「今の時のいろいろの苦しきは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。」

ローマで投獄される前の彼の苦しみの簡単な要約は、(コリント人への手紙 第二 11 章 23 - 25 節) にあります：「**23** 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。**24** ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、**25** むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。」

それは、「弟子となるための費用」の感覚を与えてくれるはずですが。私たちは、クリスチャンの生き方には「すでにあるもの」と「まだないもの」があることを思い起こさなければなりません。すでにあることの最良の部分は、イエスを知ることです。

(ピリピ人への手紙 3 章 7 - 8 節) において、使徒パウロはイエスに従うことの代償と現在の報酬を宣言しています。：「**7** しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。**8** それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、」

栄光の永遠を前にして生き、今、主イエスと交わりなさいというこれらの指示は、(ローマ人への手紙 8 章 19 - 21 節) において、より普遍的な側面や描写を与えられています。：「**19** 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。**20** それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。**21** 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」

ジーザス・ムーブメントと呼ばれた 1960 年代から 70 年代のアメリカにおける真のリバイバルの間、私たち新生したクリスチャンの多くが、クリスチャンになってからペットの犬や猫の行動が変わったとコメントしたことを覚えています。このことは聖書でも確認されています。動物は神の臨在を感じます。結局のところ、神は今でも彼らを食べ物や隠れ家に導いているのであり、そのすべてを本能として説明することはできません。

(詩篇 29 篇 9 節)：「主の声は、雌鹿に産みの苦しみをさせ、大森林を裸にする。その宮で、すべてのものが、「栄光。」と言う。」

それゆえ、神は動物とコミュニケーションをとる関係を持っています。

動物が死ぬのではなく、死は人間の行為によってこの世に生まれたことを忘れてはいけません。

(ローマ人への手紙 5 章 12 節)：「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというの

も全人類が罪を犯したからです。」一死はまた、動物、植物、生きているものすべてといった自然にも広がりました。神の存在を意識するのは動物だけに限られるように思えますが、(ローマ人への手紙 8 章 21 節)にはこうあります。：「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」 イエス

が栄光を受けた聖徒たちとともに地上を支配するために再臨されるとき、人間や動物の死はもはや存在しなくなります。体験的キリスト教について言えば、私たちクリスチャンは、神の栄光を自分の存在と周囲のすべてのものの中で体験し、自分の目で見ようになります。水が海をおおるように、地は主の栄光の知識で満たされるからです。これは預言者ハバクク書 2 章 14 節の言葉です。

そして(ヨハネの黙示録 21 章 3 - 4 節)にあります：「**3** そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、**4** 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

教訓#3 最後に

苦しみはオプションではなく、各クリスチャンに対する神の計画の一部です。摂理とは、私たちの天の父が、養子として迎えられた子どもたちのために、日々の生活の中で配慮や後見をしてくださることです。このことは、私たちの内なる聖霊の力によって、また私たちの上にある聖霊の力によって、この地球上で起きます。神の摂理と、私たちを無事に天国に連れて行くという神の約束を守ってくださる神を信頼すればするほど、苦しみを通して神への信仰を保つことができます。

教訓#4 最後に

私たちは天国を約束されているだけでなく、罪のない、悪魔のいない、苦痛のない、神、クリスチャン・ファミリー、天使たち、そして私たちの愛すべきペット、ライオン、トラ、クマ.....その他もろもろ.....天地創造のすべての動物たちとの完璧な交わりを約束されています。私たちはこの目で、これらすべてを見るでしょう！

ここで、このメッセージの冒頭で述べた「教訓」を復習しておきましょう。

教訓#1

ローマ人への手紙には、新約聖書の中でも最も簡潔で理解しにくい神学が書かれています。その多くは、ローマの家の教会で開かれる集會に参加するユダヤ人たちを対象としています。キリスト・イエスにおいて啓示された神の多くの謎を説明しています。神学とは神についての知識であり、人が神との関係に影響を与え、神の御子を受け入れ、信仰によって義とされることを神が意図したものです。

教訓#2

私たちのような罪深い肉を内に持たなかったイエスが、神への奉仕のために聖霊を必要としたのなら、私たちもそうすべきではないでしょうか。内側だけでは不十分で、聖霊が私たちの上になければならなりません。これこそ、イエスが罪深い世にイエスを示すために私たちにふさわしい力です。

神の第三位格は、私たちの人生において、このことがすべて実現するよう、任務を与えられている.....もし私たちがただ神の導きを許すならば。摂理には力があります！

そのために信仰を守る価値があります。

祈りましょう：

参考文献

{ } - Pastor Bruce's added notes for clarity

AMPC - Amplified Bible, Classic Edition

MOUNCE - both Translation , Copyright ©2011 by William D. Mounce.

& *Mounce Concise Greek-English Dictionary of the New*

Testament edited by William D. Mounce. /[Free Greek dictionary](#), BillMounce.com.

NABRE - New American Bible (Revised Edition)

NASB - New American Standard - 1995 Edition *Let Us Pray:*

WE -Worldwide English (New Testament)© 1969, 1971, 1996, 1998 by [SOON Educational Publications](#)